

社会貢献活動

カシオの考える社会貢献活動

カシオは、右図のとおり、社会貢献活動の重点分野を設定しており、カシオ独自のノウハウや経営資源、並びに、従業員個人が保有するさまざまな知識や経験を有効に活かして、カシオらしい社会貢献を果たしていきたいと考えています。

そして、「カシオ創造憲章 行動指針」に基づき、あらゆるステークホルダーとのコミュニケーションを通じて、良き企業市民としてカシオに何ができるかを見極めながら、自主的な社会貢献活動を設定し、責任を果たしていくことで信頼いただける企業を目指します。



次世代教育

独自の教育プログラムの実践等により、次世代を担う子供たちに対する責任を果たしていきます。

八王子技術センターにて小学生見学受け入れ

2007年8月よりカシオ計算機八王子技術センターでは、小学生向けの教育プログラムを開発し、小学生の受け入れ教育、並びに出前授業を始めました。

このプログラムは、2004年より甲府カシオで実施している「1万人の工場見学」をベースに、改良を加えたものであり、北海道の3校の他、都内17校の生徒さんたちに学習の機会を提供しました。

プログラムの中心となるのは、「絆の力」「創る力」「心の成長」の3つの学びです。

「絆の力」とは、人間は一人では生きられないこと、お互いの思いやりが大切であることを、スタッフの体験談や会社中での仕事の進め方を通じて学びます。

また「創る力」とは、人間は物事を創造する無限の力をもっていることを、カシオの歴史を通じて学びます。

さらに、電卓の組み立て学習では、実際に本物の電卓を組み立て、その電卓で計算をすることにより、実際の生活に役立つモノをつくる楽しさ、喜びを体験します。

「心の成長」では、自然と生命の素晴らしさに気づき、その大切さを学ぶ環境教育を行っています。

会場となる八王子技術センターは、カシ



八王子技術センターの見学（高効率型蓄熱槽）

オグループの中でも最先端の環境配慮型事業所であり、企業では具体的にどうやって環境負荷を減らしているか、実際の設備を見て体験します。



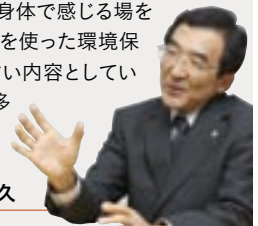
小平小学校出前授業 授業風景

そして、冷暖房の温度設定、マイバックの利用、使わない電気製品のコンセントを抜くなど、家庭でも環境のためにできることと、それがどの程度CO₂の削減に貢献するかを学びます。

受講した生徒さんの感想文をいただくと、皆さん様に、モノづくりの楽しさと、家庭でもできる環境活動に興味をもっていたいただいていることがわかります。

教育現場からの強い要請に応え、2007年度から八王子の技術センターを実施拠点とした出前授業を展開しています。生命の尊さを子供たちに伝えていくことは簡単なことではなく、さまざまな教材を使い、身体で感じる場を設定するとともに、具体的な数字を使った環境保護への取り組みなど、わかりやすい内容としています。今後は実施校を拡大し、多くの子供たちに生命への気づきを伝えていきます。

CSR推進室 若尾 久



● 「1万人の工場見学」～子供たちに生きる力を提供したい～

2004年からスタートした「1万人の工場見学」は、カシオの工場見学を通じて、子供たちに『家族の絆』『科学の力』『夢の実現』を【生きる力】に結びつける気づきをもっといただくことが目的です。

お父さん、お母さんが働く姿を目にすることで、家族の絆に気づき、社会全体がつながりを持ち、支え合っている事を学びます。製品の組み立て体験をすることで製品の構造と機能を理解し、科学の素晴らしさに目覚めます。そして、従業員の熱き語らいを通じて、諦めず一生懸命努力することで、必ず夢が実現できることに気づきます。カシオはこうした機会を提供し、将来の社会を担う人材の育成を支援しています。

2007年度、甲府カシオでは5校を受け入れ、教職員を含め213名の見学者をお迎えしました。また、東京で開催されたエコプロダクツ2007においても小学生を対象とした「電卓の組み立て体験」を実施し、3日間で約150名の子供たちが参加し活動を広げることができました。



電卓の組み立て体験

● 夏休み子供科学教室

カシオ労働組合八王子支部が所属する北八王子地区の労組組織ノースエイトは、2005年から「夏休み子供科学教室」を主催しています。子供の理科離れが心配される昨今、科学に興味をもつ機会をつくるのが目的です。

2007年7月28日、カシオ計算機八王子技術センターにて教室を開催し、カシオ労働組合の執行委員が、児童への指導の他、受付、警備などで運営に携わりました。

今回は、ノースエイト会員のお子様と八王子市立第八小学校の児童、計50名が参加し、金属板の長さで音の高低を出すアフリカの楽器「カリンバ」の製作を通じて、音の発生や音程が変わる仕組みなどを学びました。

音程を調整する工程で、子供たちは悪戦苦闘していましたが、完成させることができた時には、皆うれしそうでした。また、板の長さや音の高さとの関係などの説明には、興味深く耳を傾けていました。

今後も教室を主催し、子供たちの成長の一助となればと考えています。



子供科学教室の様子

● Kids' ISO 14000 ニューヨークプロジェクトへの支援

2007年9月、アメリカ・ニューヨークで Kids' ISO 14000 プログラム*が試行導入されました。マンハッタン、クイーンズ、ブロンクスの小学6年生約450名が、学校での講義の後、自宅で一週間電気や水道などの消費量をチェック。次の1週間でその家族が目標を決めて資源の削減にチャレンジしました。環境に無関心だった子供たちも、この活動をきっかけに、家族の中心として環境保護の重要性を理解することができ大きな成果をあげたようです。

2008年2月に行われた表彰セレモニーでは、エコインストラクターの資格を取得した初めての企業のCEOとしてカシオアメリカ寺田会長への証明書の贈呈もありました。

当初からスポンサーしているカシオアメリカとしては、今後も引き続き支援していきたいと考えています。



表彰セレモニー

※ ArTech (国際芸術技術協力機構) が開発した、環境を題材にして子供たち一人ひとりに「問題解決力、すなわち生きていく力」をつけ、未来に希望と革新をもって育っていく教育を目指した環境教育プログラム。

● 中国の大学に教育奨励基金を設立

中国はオリンピックの開催を含めた国際化の大きな広がりの中で、日本語を含む外国語能力をもった人材の育成が急務となっています。

カシオ上海は電子辞書の市場拡大を推進する上で、地元の教育者から多大な支援をいただいています。こうした支援に応え、かつ中国の外国語教育振興へ貢献するため、カシオ教育奨励基金を行っています。

2005年に北京大学、2006年には復旦大学および上海外国語大学、華東政法大学、そして、2007年には北京外国語大学、天津外国語学院に教育奨励基金を設立しました。また、各大学の学生への学費補助と教員の研究支援も合わせて行っています。

さらに、北京外国語大学との協力により、中国内の外国語高校主要17校への奨学金支給も2008年より開始します。なお、基金への拠出金総額は約600万人民币となります。



調印式

学術・研究

カシオ科学振興財団の活動を通じ、社会の発展に不可欠な最先端科学技術の開発を支援していきます。

カシオ科学振興財団の活動

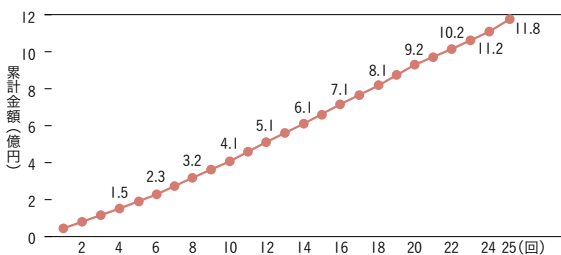
カシオ科学振興財団は1982年に、故・榎尾茂前会長と榎尾四兄弟によって設立されました。若手研究者による萌芽的な段階にある先駆的かつ独創的研究を助成することを主眼に、毎年40件程度の研究助成を行うとともに、海外派遣・研究会助成も年間各10件程度行っています。

2007年度は、49件の研究に対し、合計5,435万円の助成を行いました。助成を受けられたのは、名古屋大・伊藤先生、東京大・野崎先生、九州大・吉本先生などです。

2007年12月7日に第25回となる贈呈式を挙行し、助成金を贈呈しました。

第1回から第25回までの助成総件数は、929件、助成金の総額は、約11億7,600万円となります。

●カシオ科学振興財団 研究助成金(累積)の推移

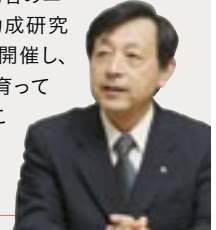


事務局の声

公益法人改革の年を迎え、助成財団を取り巻く環境は大きく変わりつつあります。

現在21分野で助成を実施している基本的なテーマの他に、特別テーマ設定を充実させて研究者のニーズに敏速に応えていきます。また、助成研究者による研究成果発表会を継続的に開催し、カシオ財団の助成テーマがどのように育っていくのかを広く皆様に理解していただくと考えています。

カシオ科学振興財団
事務局長
清水 知洋



助成研究者の声

社会科学では近年、データベースの整備・数理的解析手法の発展に伴いイノベーションが起きつつあります。しかし、社会科学的課題を工学的手法によって解決しようとする萌芽的な融合領域であるゆえ、研究意義がなかなか理解していただけません。このような萌芽的なテーマに対する支援を感謝するとともに、新しい社会科学に対する継続的支援を期待します。

東京大学 大学院情報学環
・学際情報学府 准教授
七丈 直弘 様



>>> web 「カシオ科学振興財団」Web サイト
<http://www.casio.co.jp/company/zaidan/>

環境保全

NPO や自然環境保護団体への協賛などにより、かけがえのない地球環境の保全に努めています。

「イルカ・クジラ・エコリサーチ・ネットワーク」支援

カシオは2007年、アイサーチ・ジャパン(以下 ICERC Japan)が中心となって行うプロジェクト「第7回イルカ・クジラ・エコリサーチ・ネットワーク」に参画し、G-SHOCK/Baby-Gの協賛モデルを発売。パ



G-SHOCK「イルカ・クジラ・エコリサーチ・ネットワーク」

ンドや裏蓋などに「All As One(つながりの中で生きる)」のメッセージをプリントし、さらには ICERC Japan の活動を説明したリーフレットを付属しました。また、そのパッケージには、カシオの企業活動で利用した紙を含んだ再生紙を用いており、G-SHOCK には、廃棄電池を極力減らすことのできるタフソーラーを採用しています。そしてこのモデルの売り上げの一部を ICERC Japan に寄付しました。

市民対象の「環境講座」の実施

カシオ計算機八王子技術センターは、八王子市の「環境学習・リサイクル推進協議会」からの依頼を受け、市民対象講座「事務所ビルにおける省エネ設備」を2007年6月・11月に開催。ご参加いた



自然換気システムの見学

だいた市内企業、町会、市民の方々や市環境政策課の職員の方などに、省エネ設備、省エネへの取り組み等についてご説明の上、実際の省エネ設備を見学していただきました。受講者の皆様からは、従業員一人ひとりが環境保全の大切さを理解し、全員の協力のもと地道な活動を推進し成果を出していることを高く評価していただきました。

地域社会活動

社会の一員として、事業所周辺での活動を通じ、地域社会との共生を図っていきます。

● さくらんぼマラソン大会に協賛

2004年当時、山形カシオは、「企業活動だけでなく、地元・東根市への地域貢献を通じて地域により愛される企業になろう!」と考え、それを実現する活動として「さくらんぼマラソン大会」に協賛することになりました。



一斉にスタートしていく選手たち

最初は協賛企業の一社に過ぎませんでした。翌年、2005年の第4回大会からは、より積極的に大会に貢献するため、沿道ボランティアおよび選手としての参加を社内に呼びかけました。同時に応援団も組織し自社以外の参加者にも熱い声援を送りました。

この活動も今年で5年目を迎えますが、微力でも私たちが大会の一翼を担っていくことで、地域の方々との協力関係や信頼関係をより深く形成できると思います。

文化・芸術

文化施設や交響楽団への協賛等により、人々へ喜びと感動を提供するとともに、文化・芸術の継承を図っていきます。

● 宋慶齡基金会 キーボードコンテスト協賛

宋慶齡基金会は、孫文の妻、宋慶齡女史が、中国全土の恵まれない子供たちへの支援を目的に1982年に設立し、カシオは、この目的に賛同。当該基金会の主催する「全国少年児童キーボードコンテスト」第1回大会(1986年)より、20年余りにわたり継続して協賛しています。カシオはコンサートそのものの運営に携わっており、中国音楽文化に貢献する企業として政府関係機関からも多大な評価を受けています。また、胡錦濤国家主席が提唱する「科学発展観」の中で今後の中国の合理的発展に際する子供の情操教育の重要性を強調していますが、カシオの協賛するキーボードコンテストはまさにそれを具現化するひとつの施策である、と各方面より絶賛されています。



キーボードコンテスト

その他分野

重点5分野以外にも、良き企業市民として社会に貢献していきます。

● 「ピンク・リボン」キャンペーン協賛

アメリカでは、1980年頃から市民運動として乳がん予防のためのキャンペーンが盛んになってきており、シンボルの「ピンク・リボン」を用いてさまざまなキャンペーンが実施されています。



EXILIM EX-Z75 Pink Ribbon 特別パッケージ

カシオアメリカでは、本趣旨に賛同し、上記キャンペーンを支援するため、乳がん防止財団のNBCF (National Breast Cancer Foundation) と協力し、本体色がピンクのデジタルカメラ EX-Z75をベースにして、ケース、ストラップにピンク・リボンをあしらった「EXILIM EX-Z75 Pink Ribbon 特別パッケージ」を2007年10月に販売しました。そして、その収益金の一部をNBCFを通じて乳がん研究財団に寄付しました。

受賞・表彰

● 「ものづくり日本大賞」優秀賞を受賞

山形カシオは、「製造・生産プロセス部門」で、部品事業部の金型加工・射出成形工程をデジタルネットワーク化した図面レス生産システム構築が評価され、2007年8月に内閣総理大臣表彰制度である「第2回ものづくり日本大賞」の優秀賞を受賞しました。



ものづくり日本大賞表彰式

● 「関東経済産業局長賞」を受賞

カシオ計算機初台本社ビルは、建物内設備を省エネ型への切り替え、こまめな消灯やクール・ウォームビズ等のソフト・ハード両面の継続的な取り組みが評価され、2008年2月、経済産業省が主催する「平成19年度エネルギー管理優良工場等表彰」において関東経済産業局長賞を受賞しました。



表彰式の様子

>>> 資料 ・ P 6 「2007年度 その他の主な社会貢献活動」